

平成28年12月26日

八戸ブックセンター 見学報告

見学先：青森県八戸市六日町16-2 Garden Terrace1F 八戸ブックセンター

日時：2016年12月16日

オープン日：2016年12月4日（日）

ディレクション担当、ブックコーディネーター：内沼晋太郎氏

所有冊数：8000冊

広さ：315平方メートル（約95坪）民間建物の1階部分を間借り

コンセプト：「本のまち八戸」

本を「読む人」を増やす

本を「書く人」を増やす

本で「まち」を盛り上げる

八戸ブックセンターでは、提案型・編集型の陳列による本の閲覧スペースの提供と販売、イベントの開催などを中心に、八戸市内の民間書店と図書館、市民活動などと連携しながら、本に関する公共サービスを提供していくことを目的としている。（八戸市HPより抜粋）

聞き取り：八戸市まちづくり文化スポーツ観光部 まちづくり推進室

八戸ブックセンター所長 音喜多信嗣氏

- ・ まちづくり文化推進室2～3人が担当
平成26年～調査、平成27年に設計とコンセプト作り、平成28年 基本計画書4月
ビルは平成27年に建設され28年7月に出来上がった。9月に契約して11月までの
工期で請け負ってもらった（市内業者）
- ・ 家賃は坪1万4千円、1ヶ月120万円。優良建築物の補助を使っている。
- ・ 市内3書店で組合を作り運営を市が委託している。選書は書店勤務だった人（内沼さんに憧れて東京から来た3人）を雇用し選ぶまでのところは市が担当する。選書した後、リストは組合に送り、組合が発注・検品・販売、カフェの運営も含め市より委託を受けている。
- ・ 人件費、各種経費は市の委託料でまかなう。運営管理費が組合に入るシステム。カフェは使用許可を出し、使用料を徴収している。
- ・ 八戸の図書館は古いが、図書館を作ろうという思いはなかった。

八戸市長が、「本は買うことが大事」という思いがあった。

市立図書館・・・全国トップレベルの古さ

村立図書館・・・10 数年

書店の悩み・・・良質な本が売れない→それを公共の部分で補えるのではないか？

漫画や雑誌といった商売ベースにのるもの、競合するものは

ブックセンターには置かない

取り寄せ注文が来たら、市内の書店を紹介することになっている

陳列書籍は 8000 冊

このブックセンターに惹かれて移住しようという人も出てきた。

市民が作家になることを願って「かんづめブース」執筆室もある

本を作ることをテーマにした陳列

市長推薦図書がメッセージとともにコーナーが設置されている。

読書会の場所は、本棚で四方を囲まれた中に有り、一見部屋があるとはわからない。

ハンモックにぶらさがって本を読む

本のタワーがあり、一人で楽しめるスペースを作っている

八戸の作家三浦哲郎氏の書斎を再現、そこに上がることも展示の本を購入することも可能。

企画展示や読書会も随時開催している

コーヒーは一杯 400 円だった。